



株式会社 **アルプス出版**

〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目15番18号
オフィスサンゴヤ 6F

TEL052-931-1009 FAX052-932-1312
http://www.alpspublishing.co.jp/

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861
企画・制作：株式会社 新聞ビル

元氣のでてくる“ことばたち”⁽¹⁷²⁾

村上信夫



とご本人は謙遜気味に言うが、親友の檀ふみさんに言わせると「聞き上手というより聞き好き、しゃべり過ぎ」となる。対談ページを読んでいて気づいたことがある。「おもしろそう」とか

型にとらわれないのが阿川さんの良さだ。「ゲストの人生がわかる記事や本を読んで、最低限の知識をもって対談に臨みますが、どの記事よりもさらに深い部分を聞いてみようと思います。やつぱり思っていた通りの人となるより、この人にはこんな一面もあるのか!と意外性を見つけたときは、嬉しくなるんです」。

それで? それで?

作家 阿川佐和子さん

「さすが!」とか、相槌がすべて肯定言葉なのだ。だから、話したくなる。

以前、城山三郎さんにインタビュールたときのこと。阿川さんの話に「おもしろいね」「それで?」「どうして?」「それから?」と合いの手(まさに愛の手)を上手に入れながら、穏やかな温かな表情でニコニコ聞いてもらえたそう。この人にはあれもこれもしゃべりたい」という気持ちになった。そんな聞き上手になりたいと目ざしてきた。その通りになっていると思う。

「下調べも良し悪し。下調べから想定した筋書きを作っても、その通りにいかないことがあるでしょう。本番で話の流れが違ってきたら、その場で軌道修正しなきゃいけないのに、台本にとらわれてしまう聞き手も多いのよ」。段取り通りにやろうとすると、つまらなくなるが、

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送『日曜はがんばらない』(毎週日曜10:00~)、ABCラジオ『osaka歴史ロマン』(毎週月曜18:35~)、月刊『清流』連載対談~ときめきトークなど、新たな境地を開いている。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『ラジオが好き!』(海竜社)『嬉しいことばの種まき』(近代文藝社)『いのちの対話(共著)』(集英社)など。

ない状況の中、スタッフも右往左往していて、なぐり書きの原稿を読む僕でしつかりフォローしてくれたのが有働くんでした。間違っているところを振りつたり、大丈夫ならうなずいたり、今必要だと思われる情報の原稿をさつと出してくれたんです。サッカーでいえば名アシストという感じでしょうか。あのときは入社三年目だったのかな。と述懐すると、「有働さんから新しい門出を祝福されて初めて、ご自分も『めでたいことなんだ』と認識したわけね。村上さんはNHKをやめて、自由になったことを楽しんでいらつしやる感じね」とまとめてくれた。それで、ほつとして、ふと気が緩んでいるところへ、今までは、自分も言いたいことがあると思っても全部殺してきたんじゃない?と聞かれ、「自分の意見を言っちゃいけないことが多かったですからね」とつい本音を出した。「今はそのマグマが爆発していらつしやるとお見受けいたしますわ(笑)」。

おつしやる通りです。阿川さん。



好評
発売中

■イネ・セイミプロフィール



フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ 常滑屋
とき 月二回 第二・第四金曜日
午後一時~三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九三三〇四七〇



インディアンフルート教室

開講しました。
誰でもすぐに吹けます
入会受付中!!
何か始めたいと
思っている貴女へ、
数年後、素敵に
フルートを奏でる姿が
そこにあります。
楽しく個人レッスン
致します。

講師 イネ・セイミ
(フルート奏者 指導歴30年)
1レッスン・1時間5,000円(ティータイム付)
申込み
お問合せ 0569-89-7127
seimine@oasis.ocn.ne.jp



俳画／イネ・セイミ

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

— 自分ドラマつくろう — (22) 岡田 清治

不倫

昼の食事を済ますと、前島は朝方、約束をしていたお客に会いに二人で出かけた。天野もすでに以前、挨拶をしていた携帯電話メーカーの開発担当者だった。

「前島さん、今朝の記事には驚かされましたよ。E社と提携されると、当社の情報がライバルメーカーに筒抜けになる心配があります」

「あれは先の話です。仮に将来、提携に発展ししても御社の情報を漏らすことはありませんので、ご安心ください」

「いずれにしても携帯電話の小型軽量化は日進月歩で進んでいます。当社も朝令暮改もいところで、半導体メーカーさんや金型メーカーさんに迷惑をかけていますから、あまり偉そうなことは言えたものではないですが…」

「ダウンサイジングの波はなにもコンピュータだけでなく、あらゆる電子機器に広がっているのですね」

「そうです。軽薄短小という概念が言われだしていましたが、その意味がダウンサイジングという段階にきて一層、その方向が鮮明になってきたように思います。だからこれからどの業界もし烈な競争になると思いますね」

「そうですか」

前島と天野は礼を言って帰社した。前島は次長に今日の報告をすますと、七時前に川崎の割烹店でYと会うためタクシーに乗った。

店にYが先について待っていた。

「すまん、ちよつと遅刻したな」

「俺も今しがた着いたところだよ」

「天野とかいった女性、いいね」

「そうか」

「前島は何も感じないのか」

「何を？」

「ああいう女性を男を待っているのだ」

「本当か。どうしてわかるのだ」

「俺の直感だ」

「あれを会社がリークしたとしたら、実態は青写真の検討に入っているよ」

「お前って、以前も今日のことを予測していただけにすごい予知能力を持っているな」

「人間がやることだから基本を押さえていけば、だいたいの予測はできるよ」

「そうだろうが、凡人には難しいね」



ラパウルのダブルブル活火山(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」日本のゆくえ「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX：0569-34-7971

メール：takamitsu@akai-shinbun.net



■プロフィール

著者：岡田 清治 おかだ せいじ

一九四二年生まれ ジャーナリスト (編集プロダクション・NET108代表) 著書に『高野山開創千二百年 いっぱんさん行状記』あなたは社員の全能力を引き出せますか!』『リヨンで見た虹』など多数

二人は刺身をつまみながら杯を重ねた。

「基本と言うのは、どういうことだ」

「会社の上層部は赤字とか、不採算部門は切り捨て、自分たちの地位保全を図ろうとするのだよ。半導体も利益率の回復が見込めなくなったと判断したので、いかに処理するかを考えるのが公理だよ」

「公理？」

「彼らは会社や従業員のためなんて思いはない。おそらくなりふり構わずリストラを断行してくると思う」

「だけど、そんな考えをしていたら会社のイメージが壊れ、会社そのものも危うくなるのではないのか」

「リストラしたら株価が上がるのだよ。世の中の企業トップで前島の思うような素晴らしい人物は稀有だよ。ほとんどはエゴイズムの塊だよ。すべて自分中心に回っていると思っっているのだ。それが日本のメーカーを弱体化するとわかっていてもだ」

「それで今後、うちの半導体や研究所はどうなるのだ」

「それは俺にもわからないよ。だけど、当社とE社にとって最大の効率と最小の損失をキーマンとして絵を描くだろう。前島、半導体の最大のネックは何だと思う」

「それは…」

「人件費だよ。これを極小化しなければ、これからの国際競争力には負ける。だとしたら大幅な人員整理が断行されるに違いない。とりあえずは波風を抑えるために別会社にして両社の半導体部門の統合を図るだろう。だけど、1+1=2では、何のメリットもない。つまり利益がでないで、その極大化を図ろうとする。そのためには1+1=3にしなければなら

ない。だとしたら人を半減させようとするだろう。統合した後で半減は難しいだろうから、それぞれの会社で半減させてから統合させるのが常識的なやり方だと思う」

「それは希望退職を募るといことか」

「労組の手前、建前は希望退職、つまり手を挙げた者に限定してスズメの涙程度の割増し退職金でリストラを断行するだろう」

「希望退職だけで必要な人数が集まるのか」

「集まらないよ」

「だったらどうすのだ」

「前島も気付いていると思うが…。ここ数年やたらと課長や課長待遇を増やしただろう。あれはなにも評価してそうしたものではないのだ。課長や待遇にしたら労組員でなくなるだろう。そうすると残業代もつかなくなる。リストラ対象にもなるなど、課長手前なんかよりよっぽど安くつくのだよ」

「そんなものか」

「会社という組織は意外と冷酷なのだよ。業績が上向いている時は、その毒牙が見えないだけで、いつでも使えるように磨きをかけている。ただ、労組がしつかりしているところは、こずるが、その代り下手すれば会社がつぶれる心配がある」

「リストラなんか、夢のゆめというか考えてもみなかった」

「終身雇用など日本の経営を止め、アメリカ型の新自由義に走ったことでアメリカ社会と同じ道を歩むことになる。格差社会に向け猛烈な勢いで突き進む」

「また、時々、飲もうよ」

それぞれタクシーを拾って帰宅の途についた。

前島がマンションに着いて部屋に入ると、テーブルに夕食の用意がしてあった。メモにマンション管理組合の集会有って呼び出されているので出かけますとあった。

夜の十時近くになって恵美が帰ってきた。

「昨日は横浜で得意先の人と飲んで、梯子を何軒もしたので遅くなった。それでホテルで泊まったが、連絡するには時間が遅かったのでした。ごめん」

「…」

「管理組合の集会有ったのか。何を話されたの」

「最近、マンションでペット犬を飼う人が多くなって、苦情が出ているそうです。散歩でマンションの周りにおしっこをさせたり、時にはフンもそのまま放置している人が増えている。またエレベータの中が犬の匂いがする、ベランダで吠えるのがうるさいという苦情も出ているそうです」

「そうだな。俺なんかほとんど夜が遅いのであまり気付かないが、昼間もマンションにいる人には苦情も言いたくなるのだろうね」

「これはどこのマンションでも問題になっていて、ルールをつくって苦情をなくそうとしているみたい」

「それでうちのマンションはどうするの」

「各棟の二台のエレベータのうち、一台を犬専用にする、ベランダには犬を出さない、犬のおしっこにはペットボトルで水をかけ、ふんは持ち帰る」というようなルールを決めたので、住民に意見を聞くとともに来月から実行したいということでした」

「そうか。まあ、うちは関係ないが、エレベータが不便になる。気にならない人は犬と一緒に乗ってもいいのだろう」

「もちろん。犬を連れてくる人は決まったエレベータにしか乗れないということです」

「そうか。ごめんさん」

恵美は新聞を見ていないのか、会社のニュースについては触れない。前島保も自分から話そうとは思なかった。話せば長くなるので二人は簡単な会話をして寝床についた。

その後もルーティンな日々が流れた。

E社の統合のことも日が経つにつれ、社員は意識してかその話題から公けの場所や会議では避けている風であった。内心では将来不安に悩んでいた。前島はOJTプログラムを終わって報告書をまとめ提出していた。

月末の歓迎会が終わると、人事部から新入社員の配属が伝えられる。天野にとつて、先々の不安が消えない。E社と統合したら、何のために今の会社に就職したのかという思いがよぎることがあった。

月末の金曜日、部の新入社員歓迎会が川崎駅近くの居酒屋の二階宴会場で行われた。二時間ほどでお開きになった。先の発表があったためか、全員、どこか元気がなかった。お開きの後、三々五々に分かれてカラオケやクラブに行ったが、数人は帰路についた。前島は天野より先にタクシーで横浜のホテルに直行した。天野はJRで横浜に出てそこからホテルに向かった。ホテルのフロントで尋ねると、前回、泊まった同じ部屋であった。

部屋に入ると、前島が飲み物と簡単なオードブルを取りよせ準備をして待っていた。

語りべになりましょう。

田中ふみえ

■田中ふみえ プロフィール

「語りべ ふみの会」代表
8月21日生まれ。獅子座O型
三姉妹の次女
幼い頃から本に親しみ、毎晩母の寝物語を聞いて育つ。
大学時代にアナウンス専門学校を卒業。20年にわたり「語り」の活動を続けている。届けたいメッセージは「いのちの輝き」。活動範囲は、東北から九州まで。
民話・神話・昔話のほか、日本の歴史の中で埋もれてしまった出来事や、郷土に尽くした偉人たちの足跡を作品化し、多くの人に感動と日本人としての誇りを呼び覚ましている。語りべの育成にも力を注ぐ。保育園・幼稚園、学校や寺院・企業等で公演活動を展開。
2011年
西尾キララロータリークラブより社会貢献表彰を受ける。
2012年
国際ソロプチミスト西尾より、社会貢献賞授与。

語りべ。「語りべ ふみの会」にて、語り教室講師としても活動。名古屋市、西尾市にて、語り教室を展開。2013年、常滑市でも教室開催の予定。
愛知県西尾市在住。



御縁を戴けて、とても嬉しく思います。

「誰の心の中にも、美しい光があつて。それは決して消えることはない。」

私の胸の中で、今、いつも輝いている言葉です。

語りとは、自分の世界を、人と分かち合う。自分を見つめ、耳を澄ませ、本当の自分の声を聴くこと。

語りべは、幸せへの道です。

生きることは、人と関わり続けていくこと。生きる喜びの反対語は、もしかしたら、孤独なのかも…。

心を開き 自分の世界を表現すれば 自分も人も 幸せになります。

自分を信じ 人を信じ あなたが生きる、この世界を愛しましょう。

あなたにしかできないことがある。あなたにしか語れない 物語がある。

それを、未来のどこかで、待っている人がいます。

さあ、あなたも。語りべになりましょう。

私の文章を読んでくださって、ありがとうございます。初めまして。語りべの田中ふみえです。あなたと

そんな私が、たった一つ、本当の私を表現できた場所。それが、21歳の時に出会った「語り」の世界です。物語を深く読み込めば、必ず、真の自分と出会うことになりました。鬼の姿に父親を重ね、主人公の気持ちに立つてみる。ごんぎつねに自分を重ね、その一人ぼっちの寂しさを感じてみる。そうして物語に託して表現した自分自身の姿に、お客様は、なんと、拍手を送ってくれるのです。

誰にも見せたことのない本当の私、本当は不器用でかつこ悪くて傷つきやすい私に、拍手を戴ける。それは、何にも代えがたい喜びでした。私にとって、「語り」は暗闇の中にともった光であり、「生きる」こと、そのものだったのです。私が「語り」をしなかった時期が、2年間だけありました。結婚、出産の時期です。あれは娘がまだ、私のおなかに宿っていた時のこと。不思議なことがありました。朝、目覚めるたびに誰かに励まされている気持ちになつていました。まるでおなかの赤ちゃんが「元氣を出して。一人じゃないよ。」って言ってくれているようなのです。それは初めての経験でした。私はおなかに、「空は青いんだよ。雲は白いんだよ。風はしかけるようになりました。娘が生まれて、最初に胸に抱いたとき。私の声に、ぴたりと泣くのをやめました。そして私を、じっと見つめました。ちゃんと覚えていてくれたんだ…！いのちの絆に、胸がじんと熱くなりました。

その娘が1歳になったとき。私はジョギングを始めました。毎朝5時半から約30分の自分だけの時間、小さな旅です。澄み渡る大気。空が金色に輝き始め、やがて、山の向こうから、ゆつくりと朝日が昇る。毎日こうして、今日、といういのち

は生まれてくれている。なんて、大きな愛なんだろう…。孤独の闇の底に、計り知れないほどの大きな光を、私は感じるようになったのです。その9年後の事です。主人が病気で突然、天に召されました。絶望の中で自分を責め、娘を抱えて途方に暮れている私を支えたのは、闇の底に輝いた、あの光でした。

人を、信じよう。自分を、信じよう。恨んだら負けだ。絶対に孤独になっちゃいけない。今生きている、この世界を信じよう。私はそう決断しました。そこからが、本当の私の「語りべ」の始まりだった気がします。

2005年秋。西尾市文化会館小ホールで、私は無謀にもリサイタルを開きました。「ものがたりの玉手箱」と題し、演奏を箏とマリンバの先生に依頼して「ごんぎつね」と、鶴の恩返しをモチーフにした「つうくつ鶴によせて」の2作品を上演。一人で駆け回り、必死でチケットを売りました。350席の内、埋まったのは半分。それでも、私は満足でした。「よし、これで私は生きてゆこう！」それは、私の決意表明だったのです。

「語り？なんですか、それ。」たいいてい人はそう言いました。けれど私にとっては、たった一つ、信じられる命綱です。「はい、私の生業です！」といつも元氣に答えておりました。最初は、既成の物語に音楽を入れて語っていました。が、やがて自分で物語を紡ぐようになりました。それはどれも、心の中からほとぼしる様にあふれてきたものばかり。それを無我夢中で表現しているうちに、不思議に応援して下さる方々が現れるようになり、様々な依頼を戴けるようになりました。その上語りを教えてほしいと、声をかけて下さる方も現れたのです。

今、私は沢山の方々を支えて頂いて、生きています。本当に、感謝の一言です。幼かった娘は18歳になりました。思春期を、ちゃんと反抗してくれて、乗り越えました。私は今、本当に思います。あきらめなくてよかった…。未だに臆病で見栄っ張りな私が、現れたりもするけれど。どんな自分も、愛して認めて、信じてあげようと思います。もしも、一人ぼっちでいるなら。あなたも、語りべになりませんか？語りは、幸せへの道。さあ、あなたも…！



2010年、上海万博で私の書いた脚本が、中国語に翻訳され、日中のアーティストにより上演されました。2012年には、カンボジア王国シアヌークビルシティの日本・カンボジア友好のステージで、日本昔話より「花さか爺さん」を語らせて頂きました。私は驚いています。人を信じ、自分を信じ、この世界を信じようと決意して歩んできた、世界にも行けるんだ…。最近では、「ああ、語りの田中さんね。」と言って頂けるようになりました。

知多の動植物雑記(二九三)

原 穰

二月ともなれば、四日は立春暦の上では、もう春であるが、寒さに弱いご老体私のことです。は、まさに「春よ来い、早く来い」を乞い願う日々である。

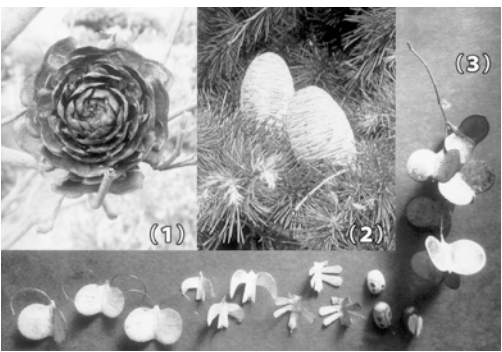
そんな折も折、別件で訪れた武豊保健センター東の林を例によってブラリ、グル

りと廻れば、目の前に高さ五メートルもあるかと思われる円錐形をしたヒマラヤスギの木が、見上げればその枝にはバラの花(1)が。

まさにバラが咲いたバラが咲いた、真赤なバラが、まさに春到来である。地上に目をやれば、こゝにも一つ二つとバラの花が目に。

言うまでもなく、これはヒマラヤスギの球果(松ならマツボツクリ)で、熟すと枝の上で分解し、種子とそれを覆っている鱗はばらばらになつて散つた後、先端部分だけが残つてバラの花のようになり、やがて落ちてく

寒いのにバラの花、自然薯から蝶



写真(1)は、昨年二月二十二日に撮つたものであり、写真(2)の球果は、八月二十二日に撮つたものである。

去年の暮に、保健センターへ確認に出れば、完全熟した球果を確認。今年も亦、二月中旬を過ぎればバラの花が咲いてるぞ、楽しみナ!

写真(3)は自然薯(ヤマノイモ)の花殻。秋も終る頃、壱丁田湿地の西方の林縁を巡れば、見事なまでに群がるヤマノイモの花殻が木の枝先から、つるで垂れ下がっている。近寄つて見れば何かチョウチョが群がりついているように見える。

写真(3)のものは、チョウとみせる為、に数の少ないものを選んで、実物ではチョウの形をした花殻は36、45個位ついている。

家へ持ち帰つて、花殻の周辺についているすじを触角にすればチョウが出来、ハサミを入れれば、トリやトンボが。コーヒー豆では、デントウも出来まふよ。

ちよつとおじやまします

光 影 薫
中 野 敦 得 さん



世の中、そんなに人たちと同じ生活をしていない。中野さんが陶芸を始めた当時は、陶芸をやっている人は、みんないい車に乗つて、いい生活をしていて。その人たちと同じ生活を目指そうと、生半可な気持ちではなかったけれど、この道に飛び込んだ。しかし、僕も左うちわ?という甘い期待は大きく裏切られた。今では、こんな時代になつてしまふとは、とシヨックは隠しきれない。

中野さんの作品は自分で作った釉薬(白積釉)を用いて、ひび割れに似た模様が特徴だ。この白積釉を用いた作品は数々の陶芸展で入選するなど、作品にひびを入れたという。こう作りたい、こう使つてほしいという思いを込めても、手に取る人にその気持ちや伝わらなければ、何の意味もなくなつてしまふ。葛藤した時期があったけれども、このひび割れが飽きのこない作品となつていく。

中野さんは25年、陶芸教室で存続している。中野さんの人柄の良さを慕い、生徒も25年間通い続けている。焼き物のことしか知らず、今まで過ごしてきた。だから、無趣味、お酒を飲んで、もうぐらゐる生活だといふ。(赤井伸衣)

郷土を知る(百八十四)

奥 川 弘 成

郷土

永禄三年(一五六〇)の桶狭間の戦いで今川方についた長尾城主岩田安廣は、戦いに敗れた後に出家し、ともなつて長尾城は廃城したと伝えられています。



昭和42年の長尾城

この字分図を現在の地図にあわせると、長尾城のあった丘の東側と南西角が削られていることがわかります。それは、明治一八八一年に工事がはじまつた省線武豊線の工事にかかわるものでした。このとき長尾城全体が官有地となり武豊での鉄道建設の兵台に用いられていました。

明治一五年、それまで武豊港にあった基点駅の武豊停車場がこの長尾城のある現在地に移されました。このころ、削られずに残つた長尾城の丘の上には、駅長等鉄道職員が住む官舎が建てられたようです。

四方一重の堀が本格的に埋め立てられたのは、江戸時代の後半以降、明治にかけてのことと考えられます。

こんなことを書き出したのも寒空の二月、昨年の特に暑かつた梅雨から夏にかけて長尾城跡の発掘調査にたずさわつた「つむものどもがゆめのあと」を目の当たりにしたからです。

四五〇年以上も埋もれていた長尾城の跡は、廃城後にその形を変え、城の建物跡に様々な痕跡を残

つています。それは、室町時代の土豪が造つた象徴的な構造物を後の人々が尊厳し護ろうとしなかつた結果であるようです。

それは、護るべきものとそうでないものとの判断が時々の時勢に左右されたからでしょう。

知らないところで、多弁に生きているんだらうな。

中野さんが陶芸を始めた当時は、陶芸をやっている人は、みんないい車に乗つて、いい生活をしていて。その人たちと同じ生活を目指そうと、生半可な気持ちではなかったけれど、この道に飛び込んだ。しかし、僕も左うちわ?という甘い期待は大きく裏切られた。今では、こんな時代になつてしまふとは、とシヨックは隠しきれない。

中野さんの作品は自分で作った釉薬(白積釉)を用いて、ひび割れに似た模様が特徴だ。この白積釉を用いた作品は数々の陶芸展で入選するなど、作品にひびを入れたという。こう作りたい、こう使つてほしいという思いを込めても、手に取る人にその気持ちや伝わらなければ、何の意味もなくなつてしまふ。葛藤した時期があったけれども、このひび割れが飽きのこない作品となつていく。

中野さんは25年、陶芸教室で存続している。中野さんの人柄の良さを慕い、生徒も25年間通い続けている。焼き物のことしか知らず、今まで過ごしてきた。だから、無趣味、お酒を飲んで、もうぐらゐる生活だといふ。(赤井伸衣)

中野さんは25年、陶芸教室で存続している。中野さんの人柄の良さを慕い、生徒も25年間通い続けている。焼き物のことしか知らず、今まで過ごしてきた。だから、無趣味、お酒を飲んで、もうぐらゐる生活だといふ。(赤井伸衣)

わが家のニューフェイス



羽賀 大真 (9ヶ月) 武豊町字祠峯

	ら	に	最	な	い	く	事	も											
写	イ	な	近	が	ナ	大	を	ち											
真	タ	っ	っ	ら	。	き	し	や											
・	ズ	て	っ	モ	そ	く	て	を											
文	ラ	、	か	リ	の	な	笑	借											
	い	自	ま	リ	為	っ	わ	し											
	っ	分	り	立	に	て	せ	て											
	ぱ	で	立	ち	今	僕	く	れ											
	い	自	が	飯	は	も	一	緒											
羽	し	由	出	を	お	緒	に	遊											
賀	ち	に	来	食	か	わ	り	だ											
	ゃ	動	る	べ	わ	り	遊	。											
	う	け	る	て	を	し	た	早											
	ん	る	よ	う	し	た	早												
	だ	か	う	よ	し	た	早												
	だ	か	う	よ	し	た	早												
恵	い	し	は	。	だ	い	し												
里	は	元	太	で															



愛とMy Family



水野 元太 (1才) 文太 (4才) 常滑市飛香台

	ぼ	み	マ	の	捨	い	ッ	最											
写	く	ん	ネ	お	て	だ	た	近											
真	ち	な	し	手	た	服	ん	、											
・	ゃ	は	た	本	り	を	だ	お											
文	ん	ド	い	は	と	カ	よ	手											
	と	キ	か	お	毎	グ	。	伝											
	で	ド	ら	兄	日	に	食	い											
	き	キ	が	ち	忙	入	器	が											
水	る	し	ん	ゃ	し	れ	を	出											
野	ん	て	ば	ん	い	た	下	来											
	だ	見	ッ	。	な	リ	が	る											
	だ	て	て	な	あ	、	た	よ											
加	よ	る	る	ん	。	グ	り	う											
奈	。け	の	で	ぼ	ミ	、	に	だ											
子	ど	。も	く	も	脱	な	。動	ら											



情報メディアの総合プロデュース企業

半田中央印刷は
企業社会貢献活動を
推進しています

献血運動
地域清掃活動
エコキャップリサイクル

当社の企業市民活動は、持続可能な社会の実現へ向けて、
「環境」と「地域への奉仕」を重点分野とし積極的に社会へ参画しています。

知多四国めぐりのお供に
関連書籍販売しています

総合印刷物企画・プランニング・デザイン・印刷・加工・オンデマンドデジタル印刷・デジタルメディア企画制作

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
http://www.handa-cp.co.jp

グループ会社
プリ・テック株式会社
プリテックメディア株式会社
トーヨー印刷株式会社

CAFÉ & RESTAURANT

コスモス

空港での
ゆったりとした
ご朝食、ご昼食は

セントレアホテルの
レストランが最適

ご予約も承ります。

朝食6:00-10:00(最終入場9:30)
昼食11:00-14:00(最終入場13:00)
お問い合わせ：0569-38-1114

中部国際空港 セントレアホテル

〒479-0881 常滑市セントレア一丁目1番地
Phone.0569-38-1111 Fax.0569-38-1110
http://www.centrairhotel.jp/
E-Mail info@centrairhotel.jp

中部国際空港セントレアホテルへは
名鉄空港特急「**エクスライ**」をご利用ください。
「**エクスライ**」は名古屋・岐阜・犬山方面から直通運転